







図1 岩手県・宮城県・福島県の高齢化率
(左：2005年，右：2040年)

		岩手県	宮城県	福島県
海岸部人口(人)	2005年	72,770	106,907	42,994
	2040年	37,245	56,860	26,792
海岸部人口増加率(%)		-48.8	-46.8	-37.7
県全域人口増加率(%)		-30.5	-19.8	-28.1

出典：林直樹・齋藤晋(2011)：岩手県・宮城県・福島県の将来推計人口：復興はコンパクトな「まち」で。電力中央研究所社会経済研究所ディスカッションペーパー，SERC11023.

長期的な課題:

「国全体の人口が減少する時代」の大震災への対応

→2040年、立派な防潮堤と空き家だけが残った(?)

→復興はコンパクトな「まち」で

→点(個々の集落)ではなく、面(地域)で生き残る

→人口減少時代の土地利用のお手本に

(集団移転のメリット)

病院や商店が近くなる

生活スタイルの変化が比較的小さい

地縁を維持することができる

移転後のサポートでも圧倒的に有利

(集団移転の課題)

どこに移転するのか:移転先をまちがえると逆効果

経済的な理由による置き去りを防ぐ:公営住宅の併設など

跡地に、心のよりどころをつくる

水田や人工林の潜在力は、できるだけ残す

内部の力で意思を固める

漁業の再編